

八千代市の財政状況

(令和元年度決算から)



やっち

令和2年11月
財政課



目次

八千代市の状況

(1) 人口と予算の推移（各年9月30日現在の住民基本台帳人口）	1
(2) 当初予算等の比較	2
(3) 近年の人口の推移（各年4月1日現在の登録人口）	3

八千代市の財政状況

(1) 決算収支の推移（普通会計）	4
(2) 歳入の内訳（普通会計）	5
(3) 自主財源及び依存財源の推移（普通会計）	6
(4) 地方税の推移	7
(5) 歳入総額に占める地方税の割合（県内比較：令和元年度数値）	8
(6) 地方交付税の推移	9
(7) 国・県支出金の推移	10
(8) 債務残高の推移（普通会計）	11
【参考】将来にわたる債務（人口1人当たり：令和元年度数値）	12
【参考】債務負担行為（東京女子医科大学附属八千代医療センター）	13
(9) 地方債残高の内訳（普通会計）	14
【参考】国庫支出金と地方債（小中学校普通・特別教室等空調設備整備PFI事業）	15
(10) 目的別歳出の内訳（普通会計）	16
(11) 目的別歳出の推移（普通会計）	17
(12) 性質別歳出の内訳（普通会計）	18
(13) 性質別歳出の推移（普通会計）	19

八千代市の財政指標

(1) 決算収支	20
(2) 決算収支の推移（普通会計）	21
(3) 経常収支比率の推移	22
(4) 公債費負担比率の推移	23
(5) プライマリーバランスの推移	23
(6) 財政調整基金残高の推移	24
(7) 健全化判断比率	25
【参考】健全化判断比率（直近10年間の推移）【令和2年9月30日現在】	26
【参考】健全化判断比率（県内他市との比較）【令和2年9月30日現在】	27
(8) 市の財政を家計にたとえると	28

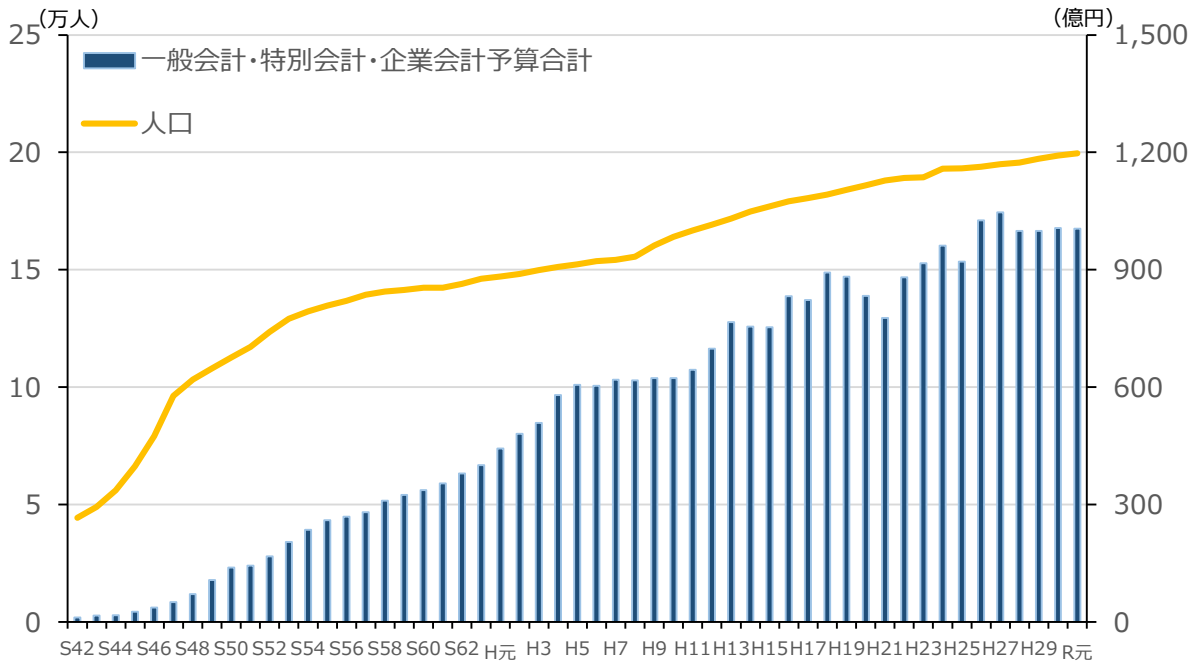


平成24年度に市制45周年を記念して、八千代市のPRシンボルとして親しみを持てるイメージキャラクターの「やっち」が誕生しました。



八千代市の状況

(1) 人口と予算の推移（各年9月30日現在の住民基本台帳人口）



八千代市は昭和42年1月1日に市制施行しました。当時の人口は41,574人。令和元年9月30日の人口は199,603人、約4.8倍となっています。

時期	内容
昭和30年代	八千代台団地造成（日本の大規模住宅団地の発祥の地）
昭和40年代	勝田台団地，米本団地，高津団地造成
昭和50年代	村上団地造成
平成8年	東葉高速鉄道線開通





八千代市の状況

(2) 当初予算等の比較

区分	昭和42年度	令和元年度	倍率
一般会計	948,447千円	56,850,000千円	59.9倍
予算総額	1,154,308千円	100,462,284千円	87.0倍
人口（各年9月30日現在住民基本台帳人口）	44,377人	199,603人	4.5倍

市制施行当時の昭和42年の予算と比較すると、一般会計予算は59.9倍、特別会計と公営企業会計を加えた予算は87.0倍になっています。貨幣価値は変わっていますが、特別会計等が設置されている数を見比べても市で行う事業が増えていることが分かります。

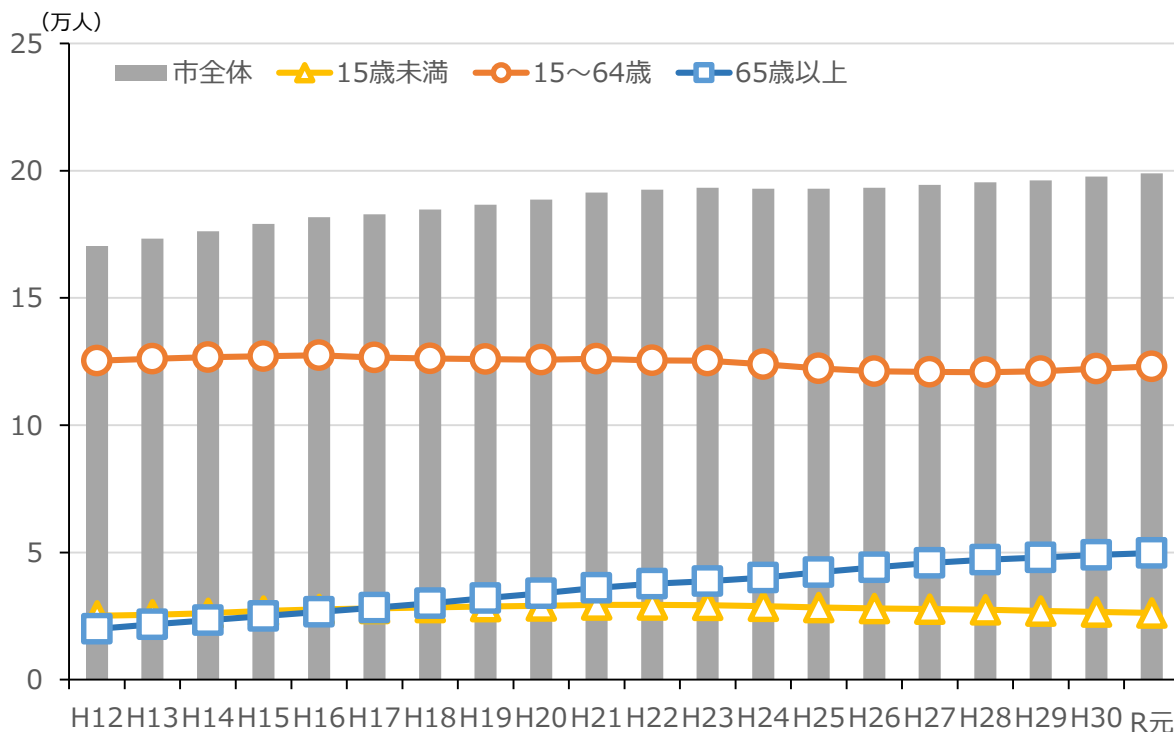
昭和42年度	令和元年度
【特別会計】 国民健康保険事業特別会計 上水道特別会計 八千代都市計画村上地区土地区画整理特別会計	【特別会計】 国民健康保険事業特別会計 介護保険事業特別会計 墓地事業特別会計 後期高齢者医療特別会計 【公営企業会計】 水道事業会計 公共下水道事業会計

会計	説明
特別会計	特定の事業を行う場合や特定の歳入を特定の歳出にあて、一般会計と区別する必要があるときに設置する会計です。
公営企業会計	国や地方公共団体が営む水道事業や鉄道事業などの企業部門が行う会計です。



八千代市の状況

(3) 近年の人口の推移（各年4月1日現在の登録人口）



(出典 千葉県年齢別・町丁字別人口)

平成8年4月、東葉高速鉄道が開通し人口が急激に増加しましたが、近年では15~64歳の生産年齢人口は横ばい傾向にあります。また、高齢化も同時に進行し、平成17年に初めて65歳以上人口が15歳未満人口を上回りました。

※ 千葉県内市町村との比較（平成31年4月1日現在）

内容	八千代市	千葉県
平均年齢	45.4歳	46.5歳
年少人口（15歳未満人口）比率	13.2%	12.1%
老年人口（65歳以上人口）比率	25.0%	26.8%
人口増減率平成22年~27年 国勢調査結果	1.8%	0.1%

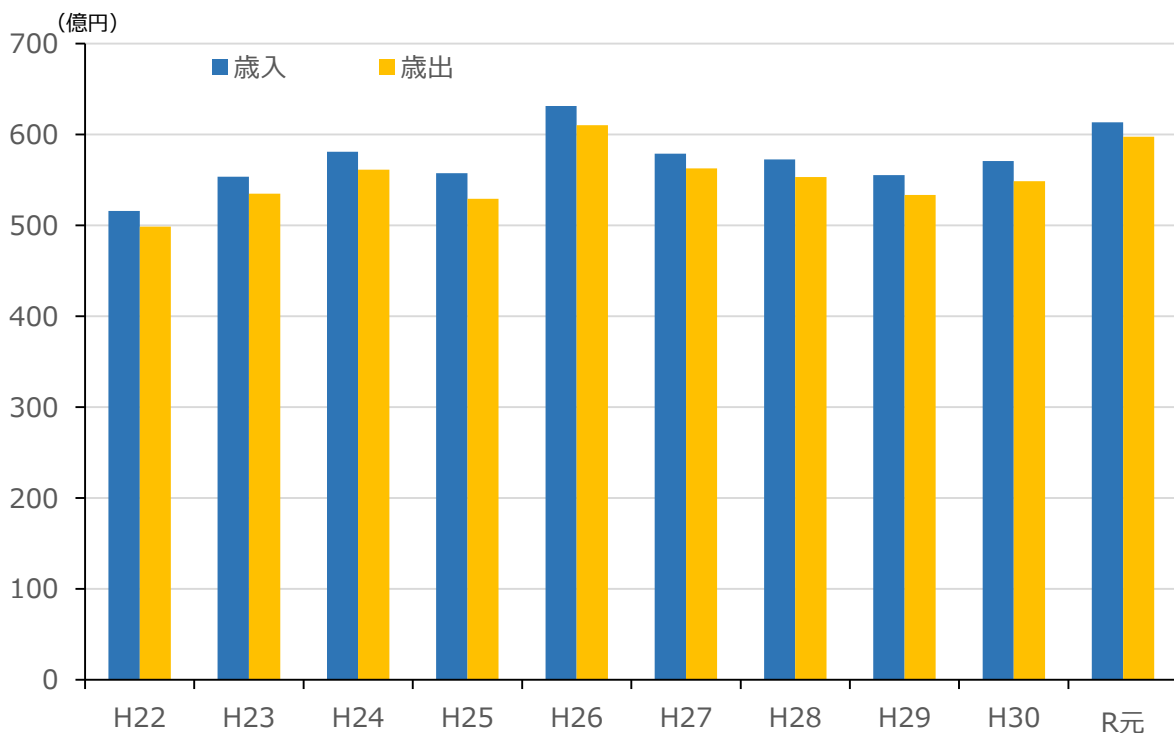


八千代市の財政状況

(1) 決算収支の推移（普通会計）

(単位：千円, %)

年度	歳入	対前年度比	歳出	対前年度比
H22	51,578,721	△2.1	49,834,869	△3.8
H23	55,338,871	7.3	53,484,930	7.3
H24	58,072,038	4.9	56,109,688	4.9
H25	55,710,192	△4.1	52,911,816	△5.7
H26	63,121,800	13.3	61,021,920	15.3
H27	57,860,696	△8.3	56,237,237	△7.8
H28	57,234,629	△1.1	55,300,028	△1.7
H29	55,514,400	△3.0	53,315,812	△3.6
H30	57,078,154	2.8	54,845,337	2.9
R元	61,318,718	7.4	59,721,618	8.9



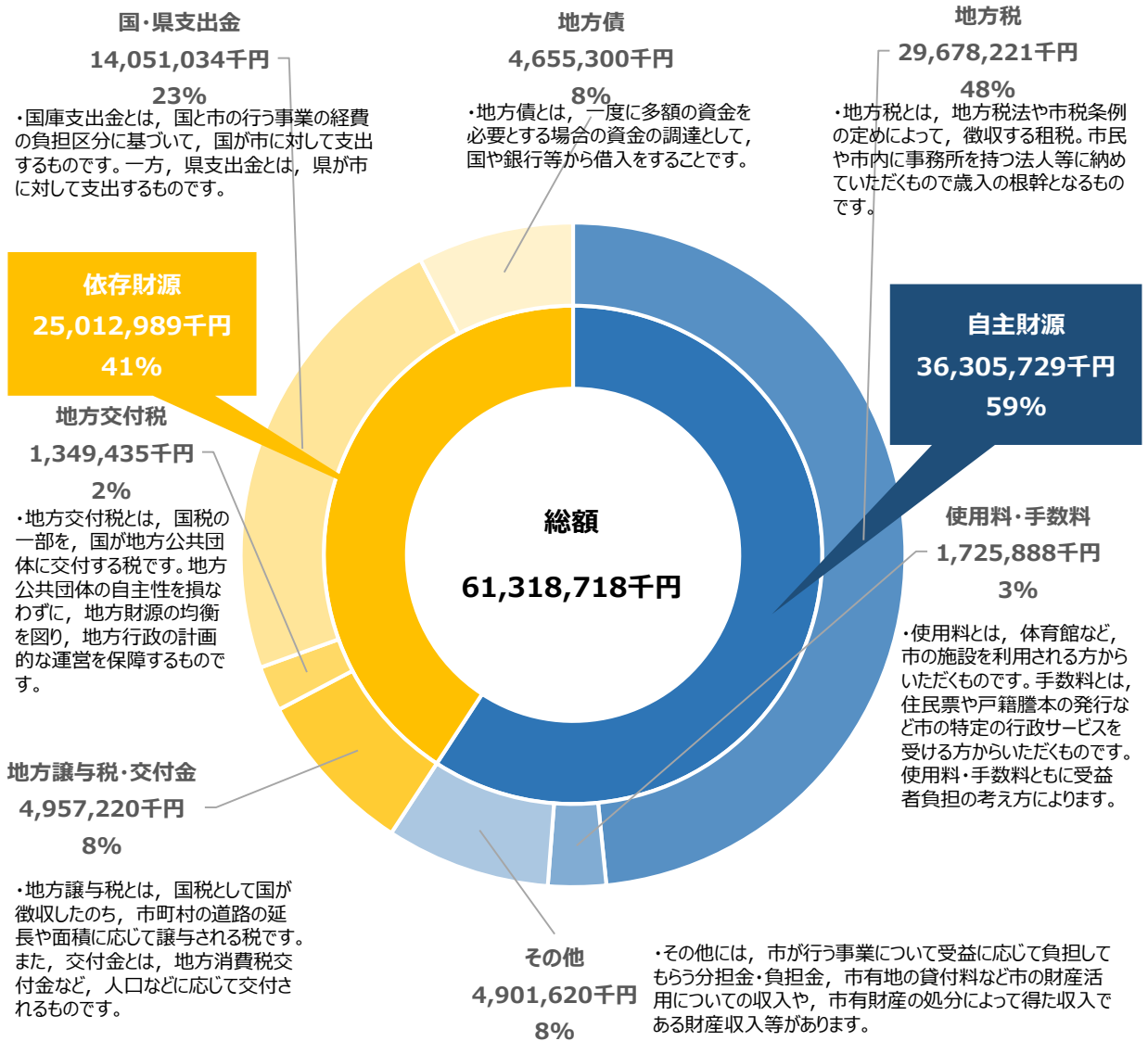
他の自治体と比較するために、全国共通の「普通会計」という会計で比較します。現在の八千代市の普通会計は、一般会計と墓地事業特別会計とを合わせた会計になります。

令和元年度は、小中学校普通・特別教室等空調設備整備 P F I 事業、東消防署建設事業、保育園整備事業等の大規模事業により、歳入歳出ともに増となりました。



八千代市の財政状況

(2) 歳入の内訳 (普通会計)

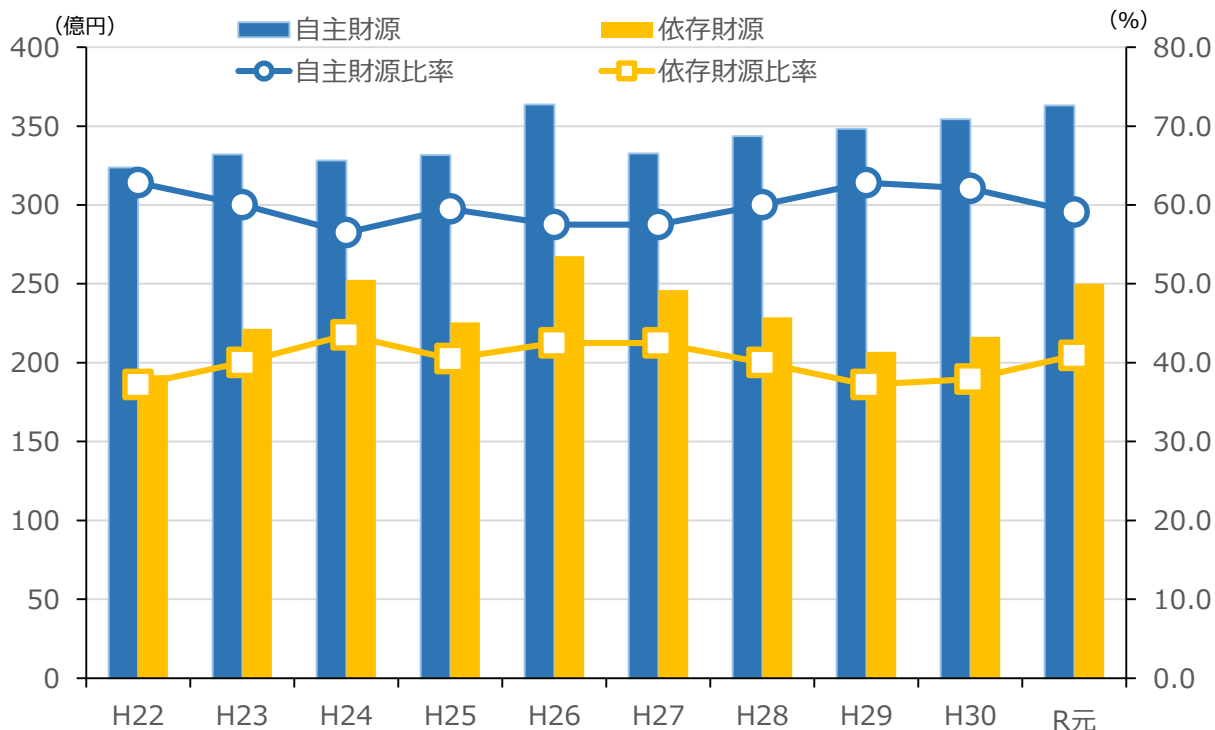


※ 歳入の約半分が地方税です。国庫支出金，交付金，県支出金が続きます。



八千代市の財政状況

(3) 自主財源及び依存財源の推移（普通会計）

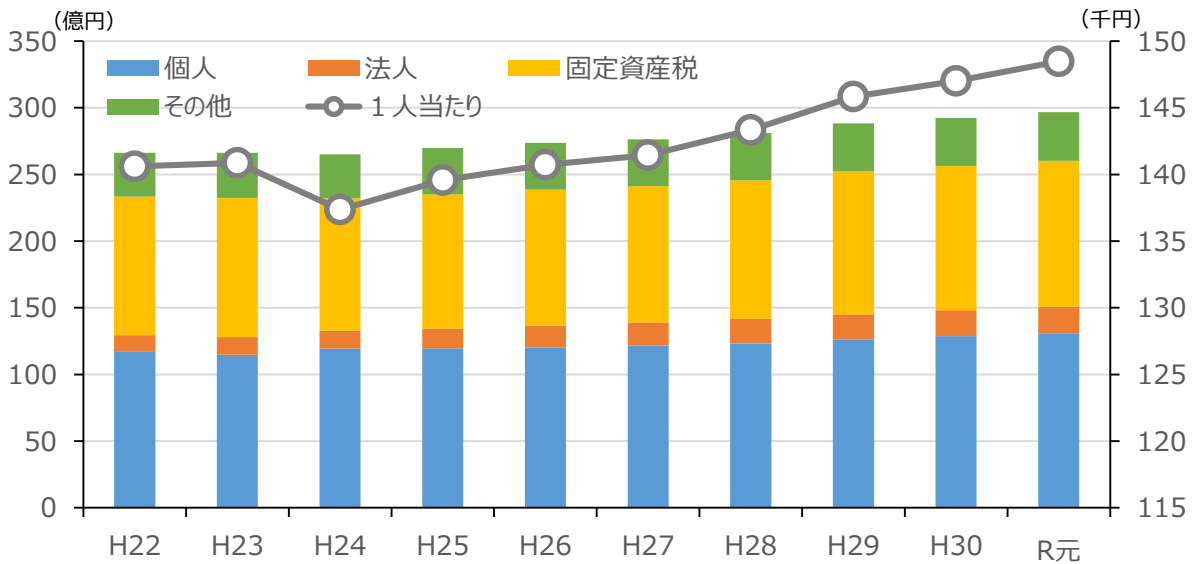
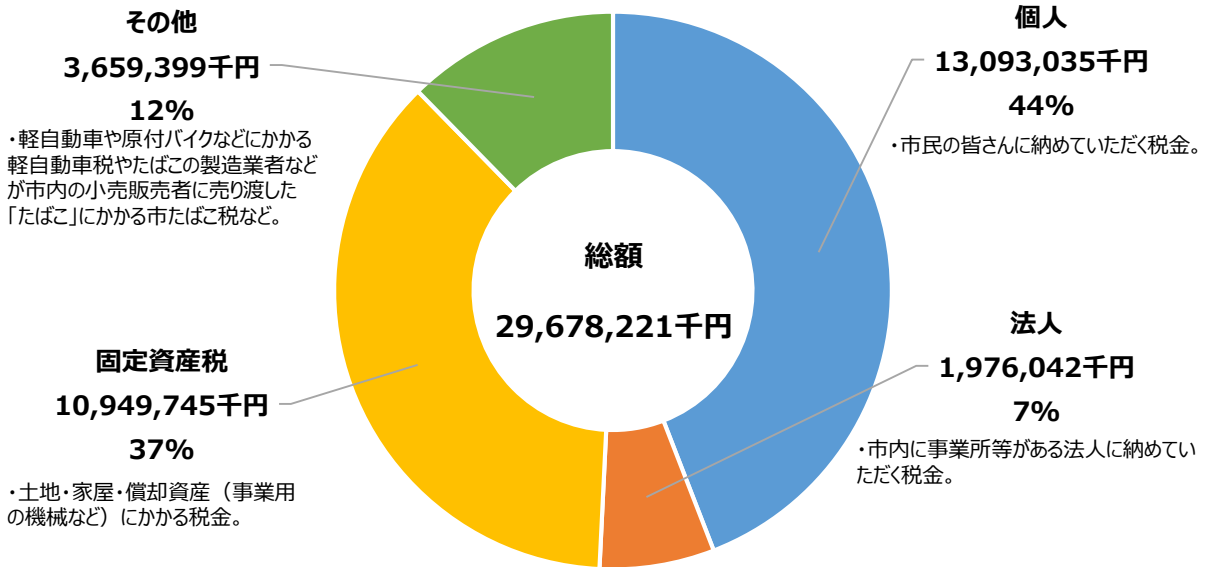


区分	説明
自主財源	みなさんに納めていただく地方税や使用料，手数料など，地方公共団体が自主的に得ることができる財源です。
依存財源	国や県からの支出金，地方債など市が自主的に得ることができない財源をいいます。

令和元年度は，小中学校普通・特別教室等空調設備整備 P F I 事業，東消防署建設事業，保育園整備事業等の大規模事業による地方債の増により，依存財源比率が上昇しました。

八千代市の財政状況

(4) 地方税の推移



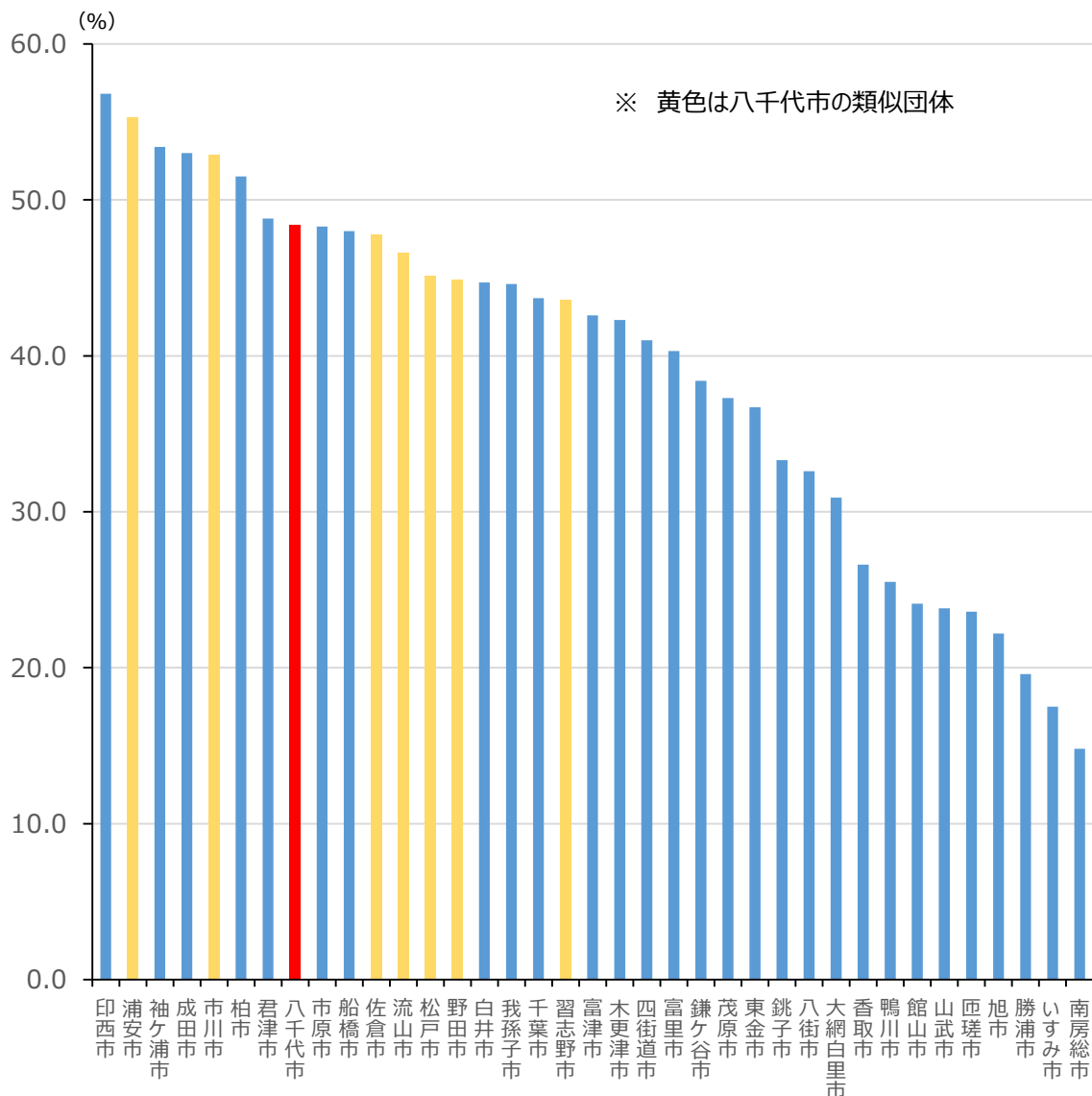
自主財源の中で大きな割合を占めている地方税ですが、景気の変動や税制の変更に左右されます。

リーマンショック等世界的な景気後退の影響により、平成23年度をピークとして個人市民税の落ち込みが見られましたが、その後は景気回復に伴う個人所得の増等もあり、増加基調で推移しています。固定資産税は3年ごとに実施される評価替えによる変動があるものの、ほぼ横ばいで推移していましたが、近年は緑が丘西地区の宅地開発に伴う住宅用地の増のほか、新築家屋等に係る軽減期間の終了などにより増加しています。



八千代市の財政状況

(5) 歳入総額に占める地方税の割合（県内比較：令和元年度数値）



千葉県内の各自治体について、それぞれの歳入総額に占める地方税の割合が高い順に並べたグラフです。八千代市は県内でも比較的上位に位置しています。

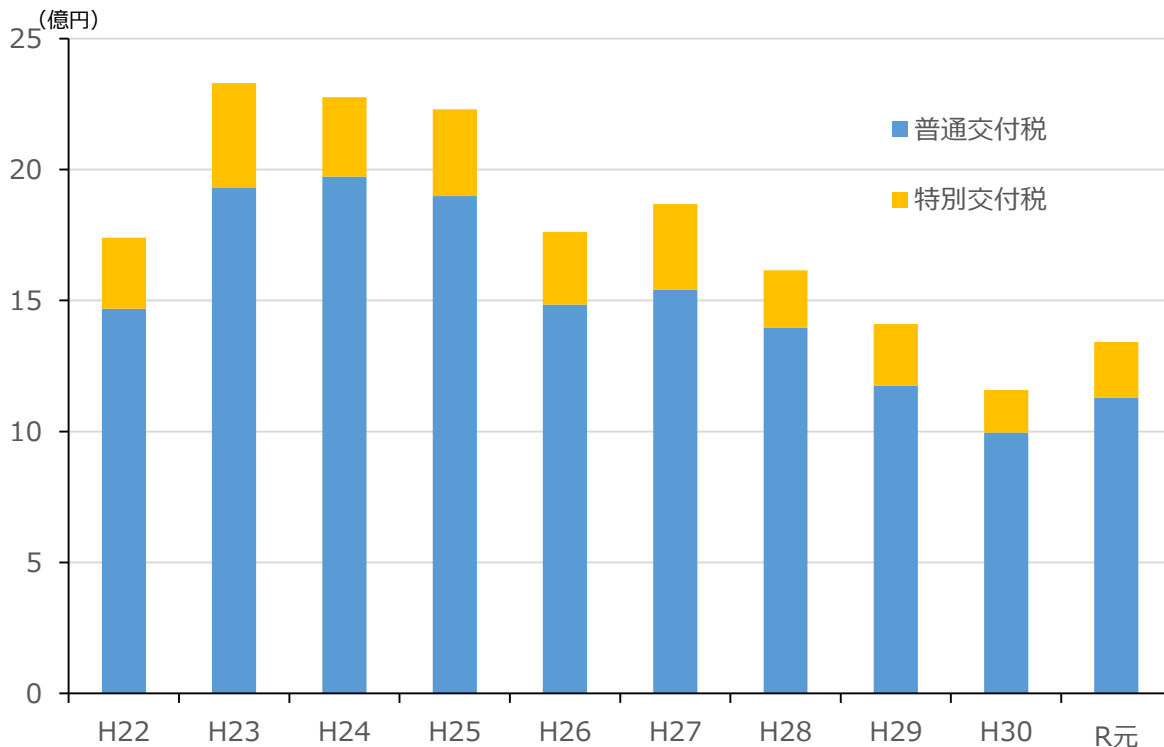
※ 類似団体とは

総務省において分類する態様（人口及び第2次・第3次産業人口比率）が類似している地方公共団体のこと。



八千代市の財政状況

(6) 地方交付税の推移



地方交付税は、すべての地方公共団体の行政サービスが一定の水準で行われるために必要な財源を確保するものです。国税のうち所得税、法人税、酒税、消費税及び地方法人税の一定割合を国が交付します。地方交付税には、普通交付税と災害など特別の事情に応じて交付される特別交付税があります。総額の94%が普通交付税として、6%が特別交付税として交付されます。

※ 普通交付税の仕組み

普通交付税は、基準財政需要額（標準的な財政需要）に対する基準財政収入額（標準的な財政収入）の不足額が交付されます。なお、平成13年度より、当該不足額の一部が臨時財政対策債に振替える仕組みが導入されました。

基準財政需要額

基準財政収入額

普通交付税

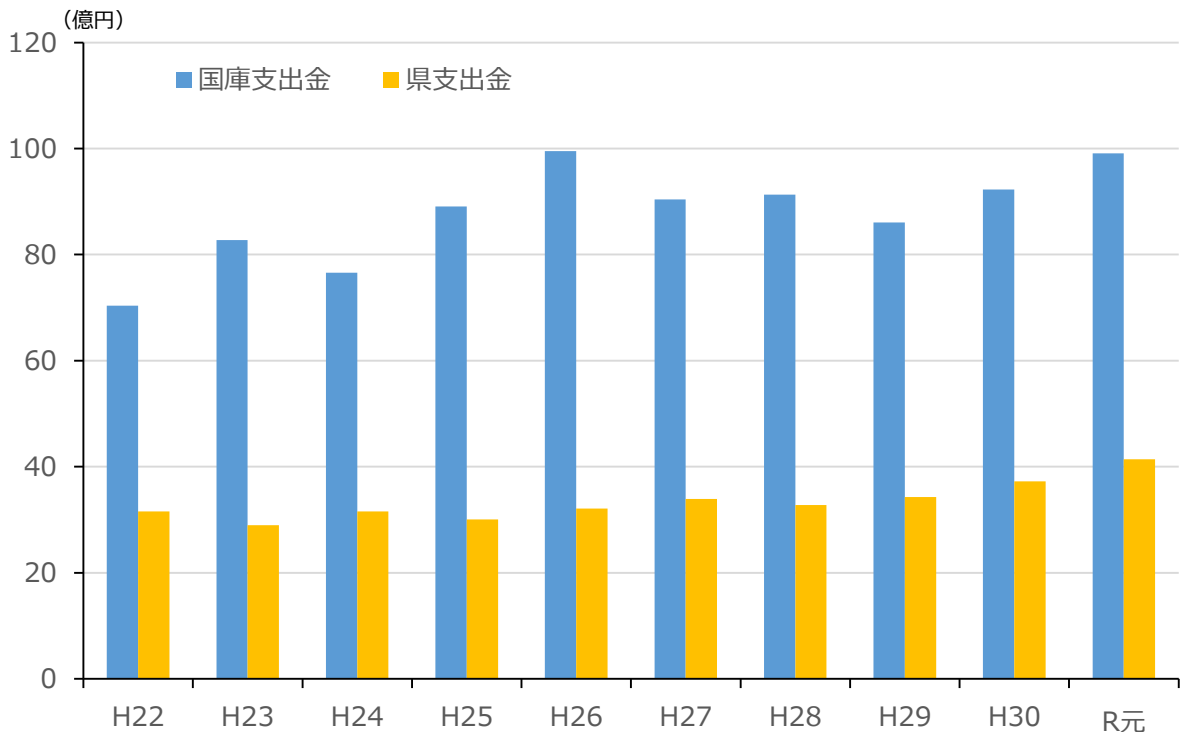
地方税収入の75%

+

地方譲与税等

八千代市の財政状況

(7) 国・県支出金の推移



国庫支出金とは、地方公共団体が行う特定の事務事業に対して国から交付されるお金のことです。この国庫支出金には、国が地方公共団体と共同で行う事務に対して一定の負担区分に基づいて義務的に負担する国庫負担金、国が援助として交付する国庫補助金、国からの委託事務で経費の全額を負担する国庫委託金の3つがあります。

同様に県から交付される場合には、県支出金といいます。

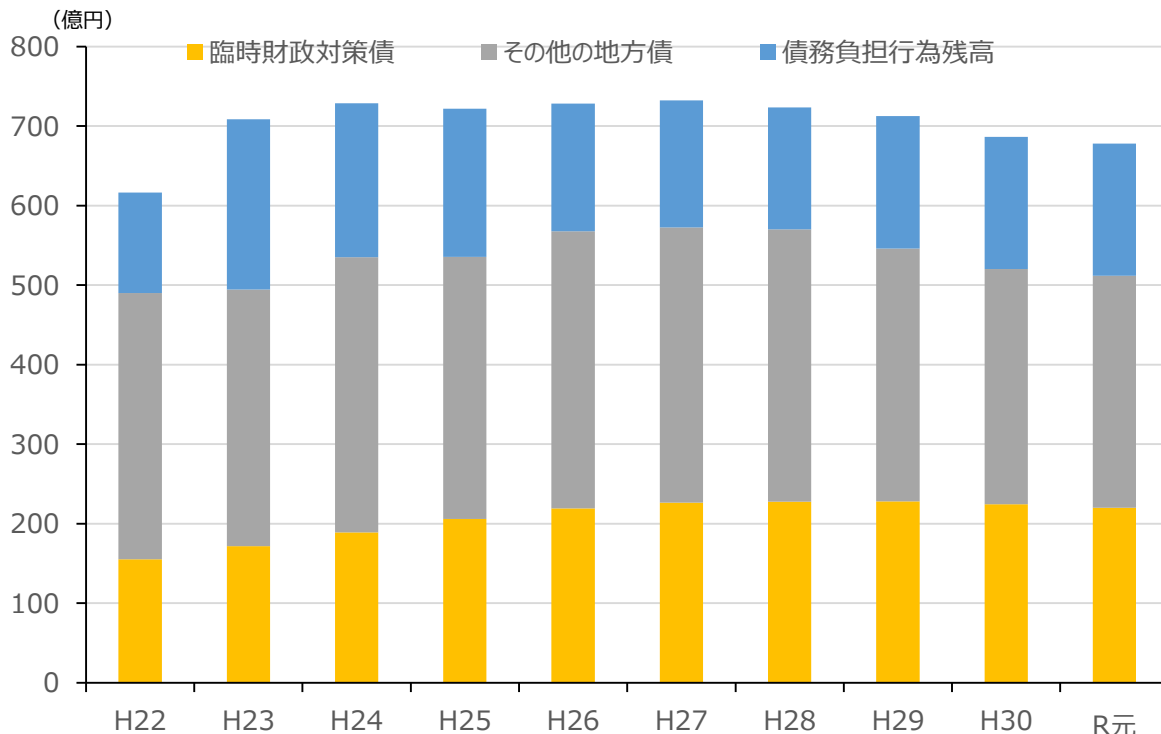
国庫支出金について、平成26年度は、新川周辺地区都市再生整備計画に係る社会資本整備総合交付金や、八千代台東小学校及び八千代中学校校舎改築事業に係る負担金及び交付金の増等により増加しています。平成27年度以降は大規模建設事業の終了とともに建設事業に係る交付金等は減少傾向にありましたが、平成29年度以降は待機児童対策による民間保育園の増園や障害福祉サービス費等などの扶助費の増により、国庫支出金が増加しました。

県支出金については、平成22年度以降横ばいの状態が続いていましたが、平成29年度以降は扶助費の増に起因し増加傾向にあります。



八千代市の財政状況

(8) 債務残高の推移（普通会計）



地方債とは、地方公共団体が資金調達のために負担する債務であって、その返済が一会計年度を超えて行われるものです。原則として、学校建設、道路整備、公園整備などの建設事業に対して発行されます。

臨時財政対策債については、地方交付税の代わりに、地方公共団体が国に代わって発行する特例的な地方債です。償還にあたっては、地方交付税を算定する上での基準財政需要額に全額算入されます。

債務負担行為とは、地方公共団体が業務委託、建設工事及び用地取得を行う場合に、複数年度にわたる契約を結ぶ等、将来の財政支出を約束する行為で、予算として定め、議会の議決が必要です。現金支出を必要とするときには、あらかじめ歳出予算に計上しなければなりません。

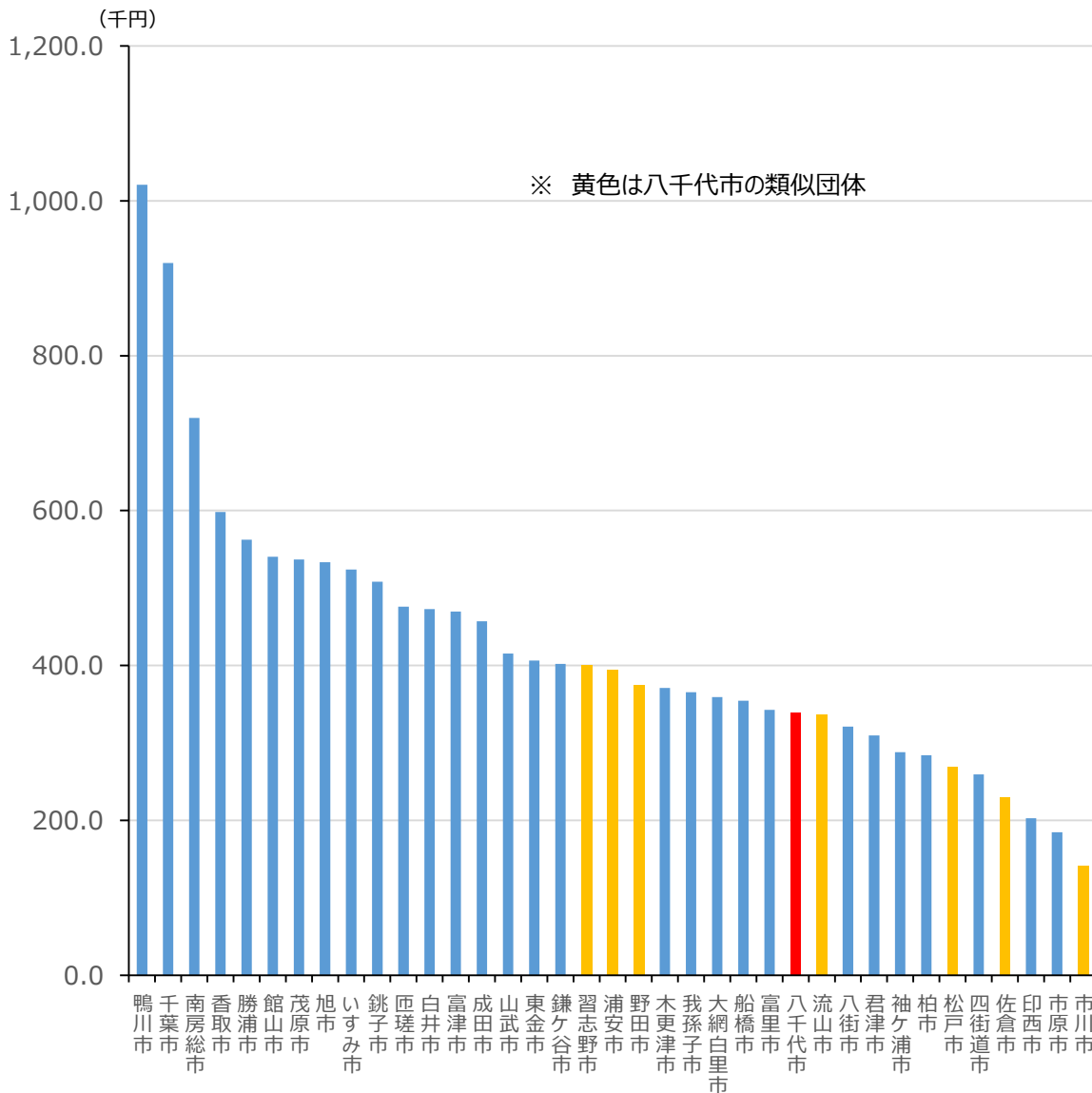
臨時財政対策債の伸びが大きく地方債残高の伸びは臨時財政対策債によることが大きくなっています。

債務負担行為残高が平成23年度に大きく伸びているのは「学校給食センター西八千代調理場の整備費並びに運営管理費」、「基幹情報システム運用管理業務委託」について債務負担行為の設定を行ったためです。



八千代市の財政状況

【参考】将来にわたる債務（人口1人当たり：令和元年度数値）



令和元年度の債務残高（地方債残高と債務負担行為残高の合計）を住民1人当たりで比較したものです。類似団体中、習志野市、浦安市、野田市が比較的高くなっています。

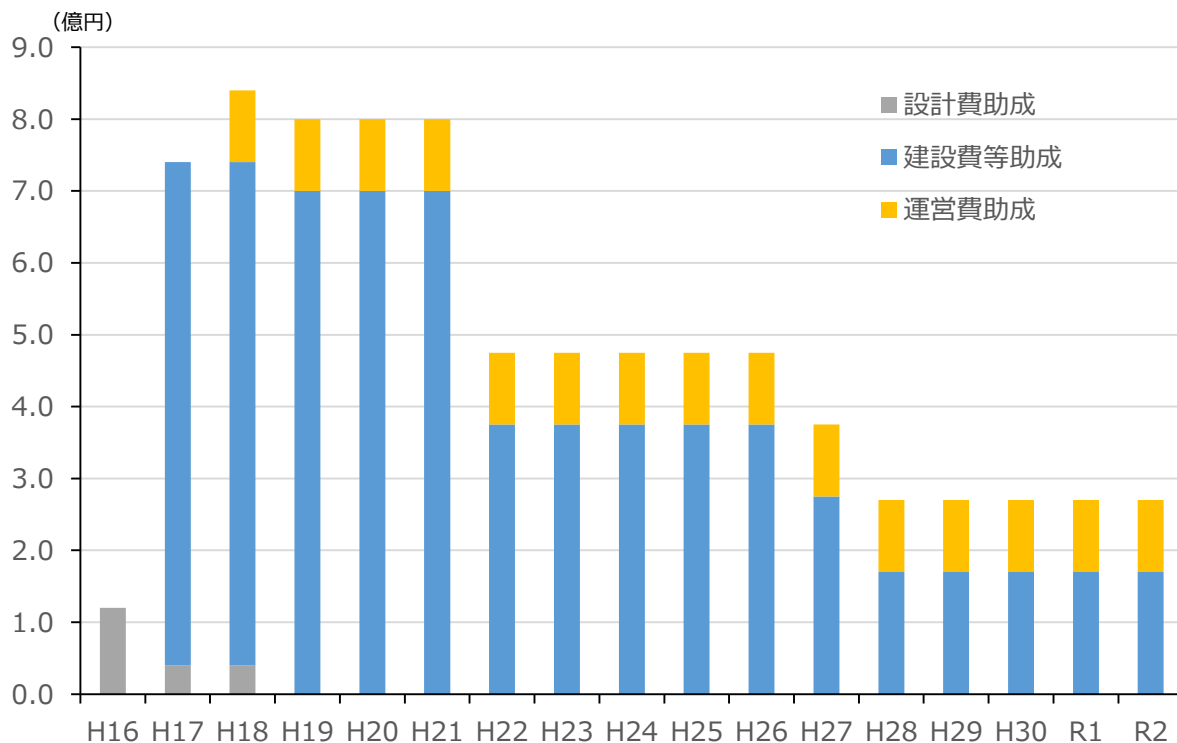
公共施設の整備には、一時期に多額のお金が必要になります。その年だけの収入で賄うと、その年だけの市民で負担することになります。将来の市民も利用するものであるため、負担の公平性を図る観点から、必要なお金の一部を借り入れて後年度に返済することで、平等に費用の負担をお願いするものです。

しかしながら、あまり地方債に頼ると返済が多額になり、将来の市の財政を圧迫することになるため、公債費（元利償還金）の割合などに配慮する必要があります。



八千代市の財政状況

【参考】債務負担行為（東京女子医科大学附属八千代医療センター）

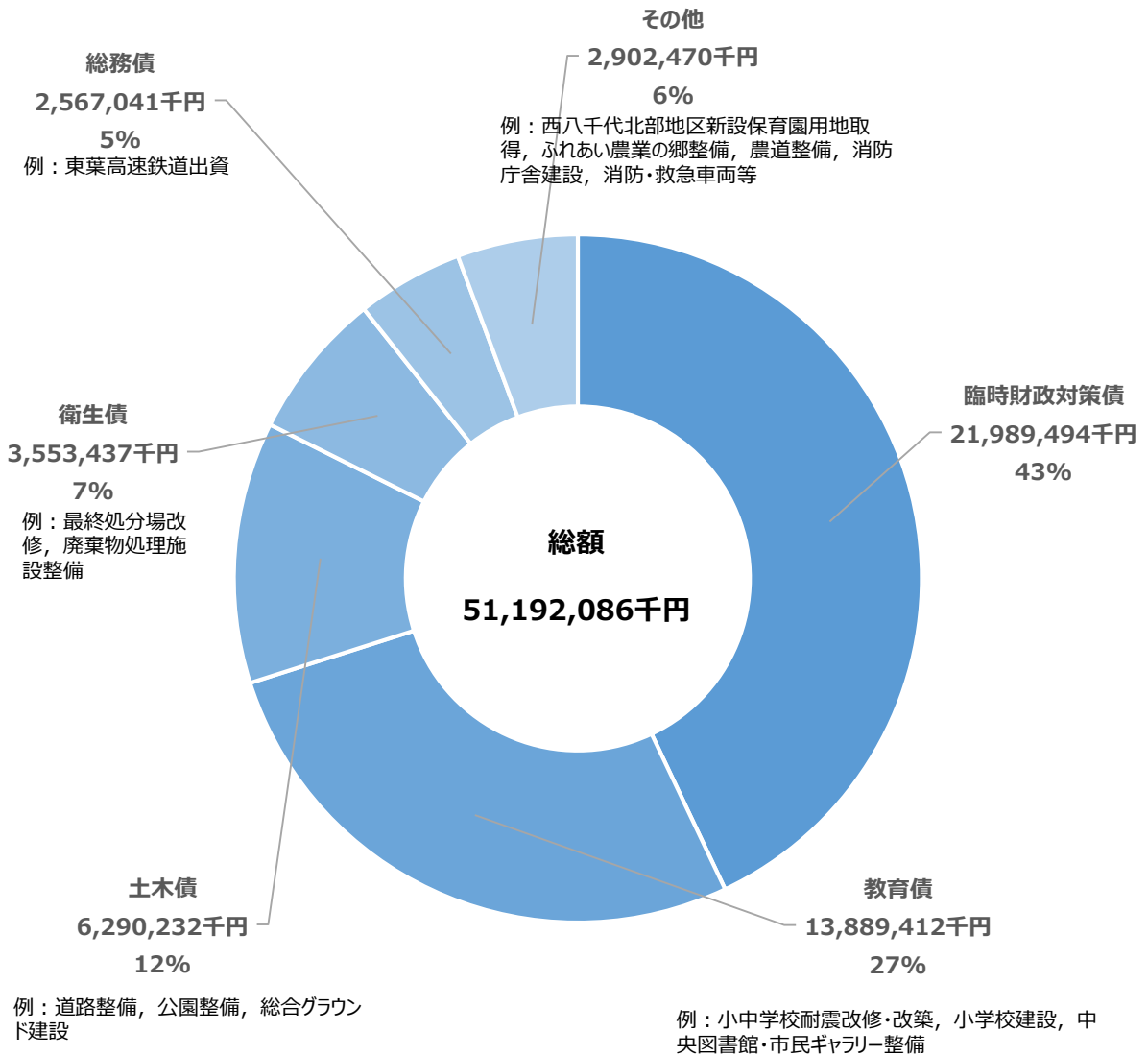


(東京女子医科大学附属八千代医療センター上空から)



八千代市の財政状況

(9) 地方債残高の内訳（普通会計）



臨時財政対策債の次に借入残高が多いのは教育債で、これは、平成になってからも、萱田小学校、萱田中学校、萱田南小学校、みどりが丘小学校の開校や、近年では、八千代台東小学校及び八千代中学校校舎改築及び小・中学校校舎等の耐震改修事業、中央図書館・市民ギャラリーの建設等を行っているためです。次に多い土木債は、総合グラウンド建設、都市計画道路の用地取得や建設、公園用地の取得にかかわるものなどです。総務債については、東葉高速鉄道の経営支援が主なものです。



八千代市の財政状況

【参考】国庫支出金と地方債（小中学校普通・特別教室等空調設備整備PFI事業）

熱中症事故の防止及び夏季における教育環境の確保のため、市内全ての小中学校の普通教室・特別教室等の空調設備について、民間の資金と経営能力・技術力を活用するPFI手法を導入し、整備しました。

このような大規模整備事業には、国からの負担だけでなく、地方債も活用し、将来継続的に使用できるように施設を整備しています。

(単位：千円)

内容	事業費	国庫支出金	地方債	一般財源
小中学校普通・特別教室等空調設備整備PFI事業	1,937,971	347,352	1,462,100	128,519
割合	100.0%	17.9%	75.5%	6.6%

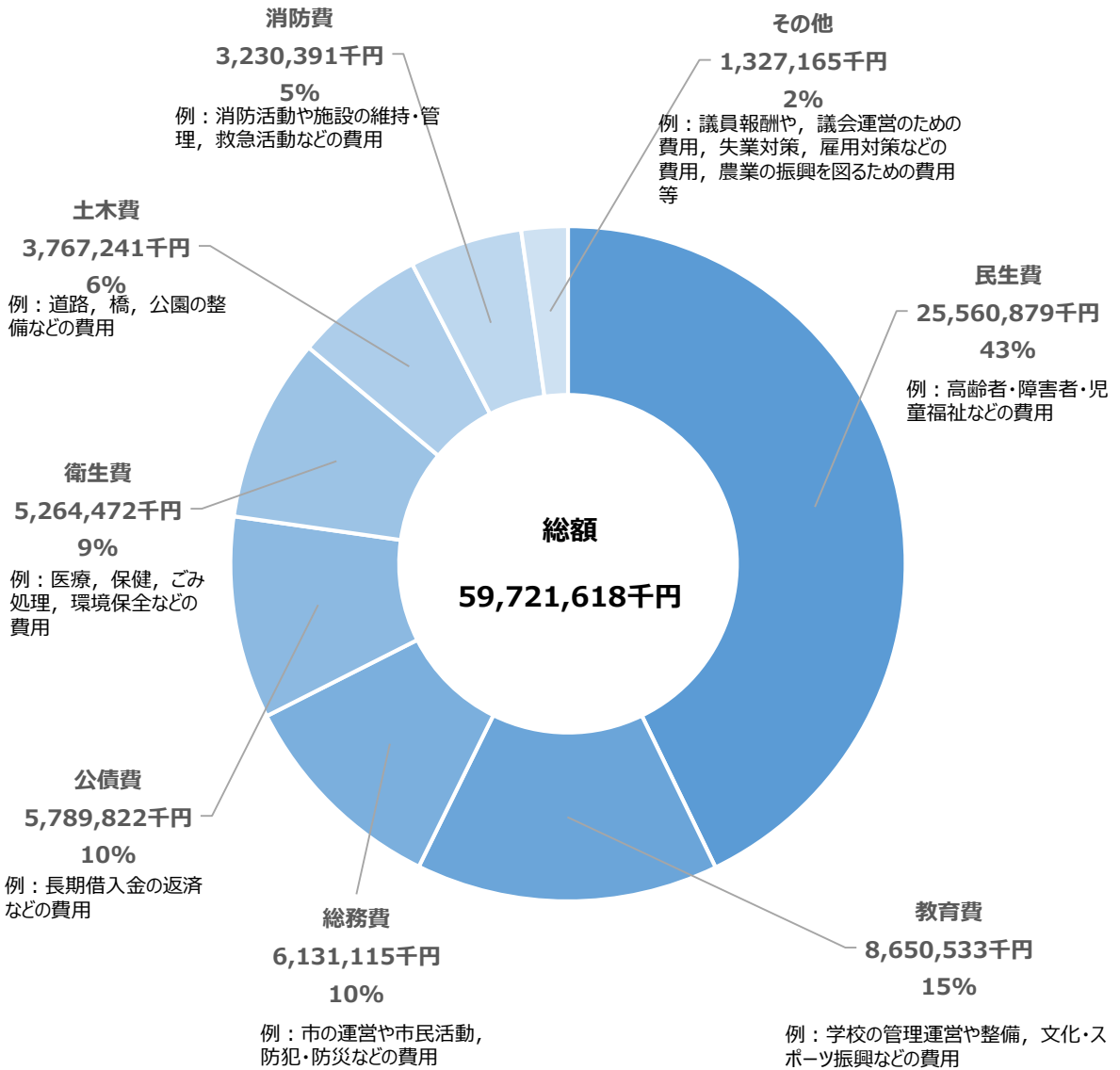
(八千代中学校普通教室)





八千代市の財政状況

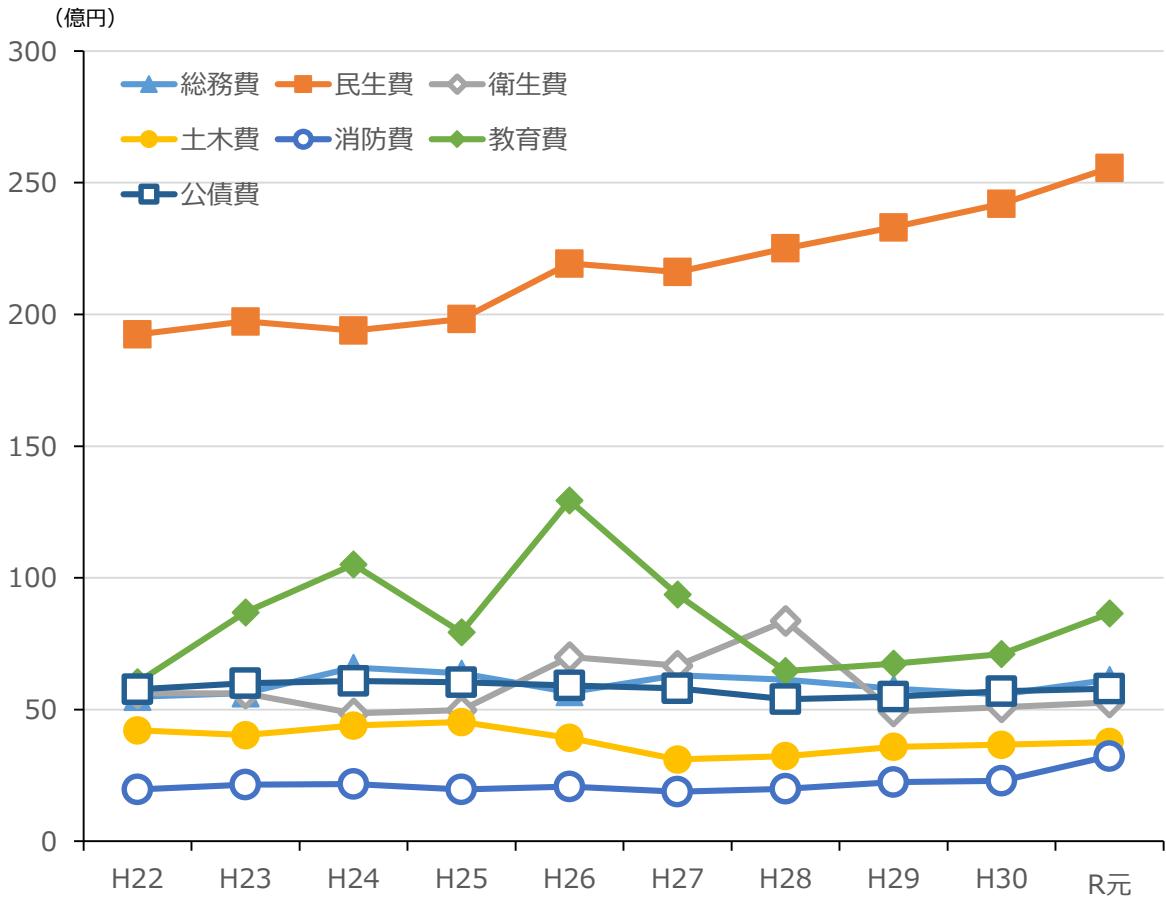
(10) 目的別歳出の内訳 (普通会計)



※ 目的別分類とは、地方公共団体の経費を行政目的によって分類することです。

八千代市の財政状況

(11) 目的別歳出の推移（普通会計）



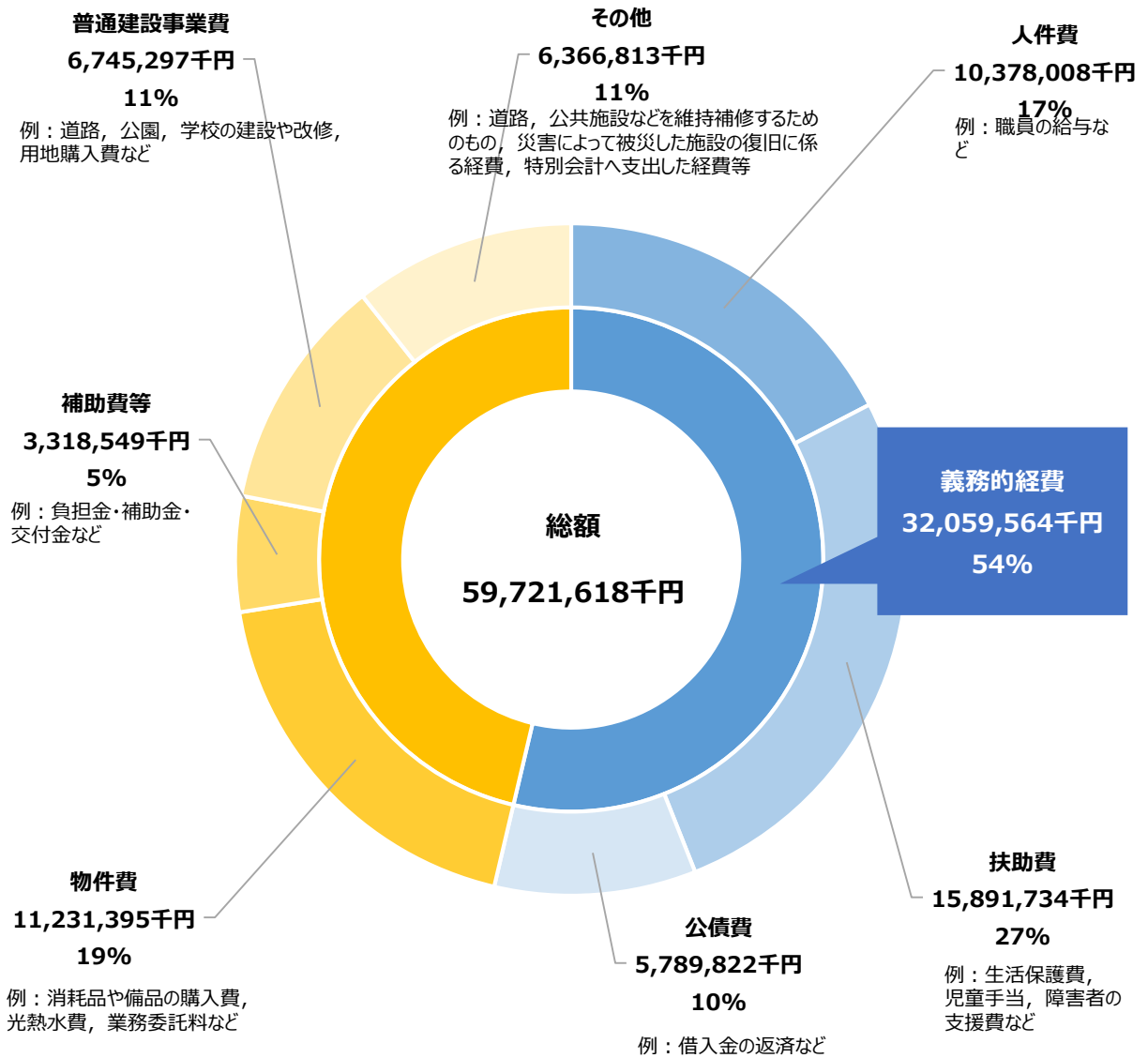
少子高齢化の進展などによる自然増等により、福祉サービスの費用である民生費は支出の約43%を占め一番多い経費となっています。

また、民生費の次に多い教育費では平成23年度のみどりが丘小学校校舎等買収、学校給食センター調理場用地取得等、平成24年度の市民会館リニューアル整備、学校給食センター西八千代調理場整備等が主な増加要因です。

なお、平成25年度は前年度でこれらの事業が終了したこと等により減となりましたが、平成26年度は、中央図書館整備及び八千代台東小学校改築事業等により大きく増加しています。平成30年度以降も新規整備した教育ネットワークシステムなどにより、引き続き増加傾向にあります。

八千代市の財政状況

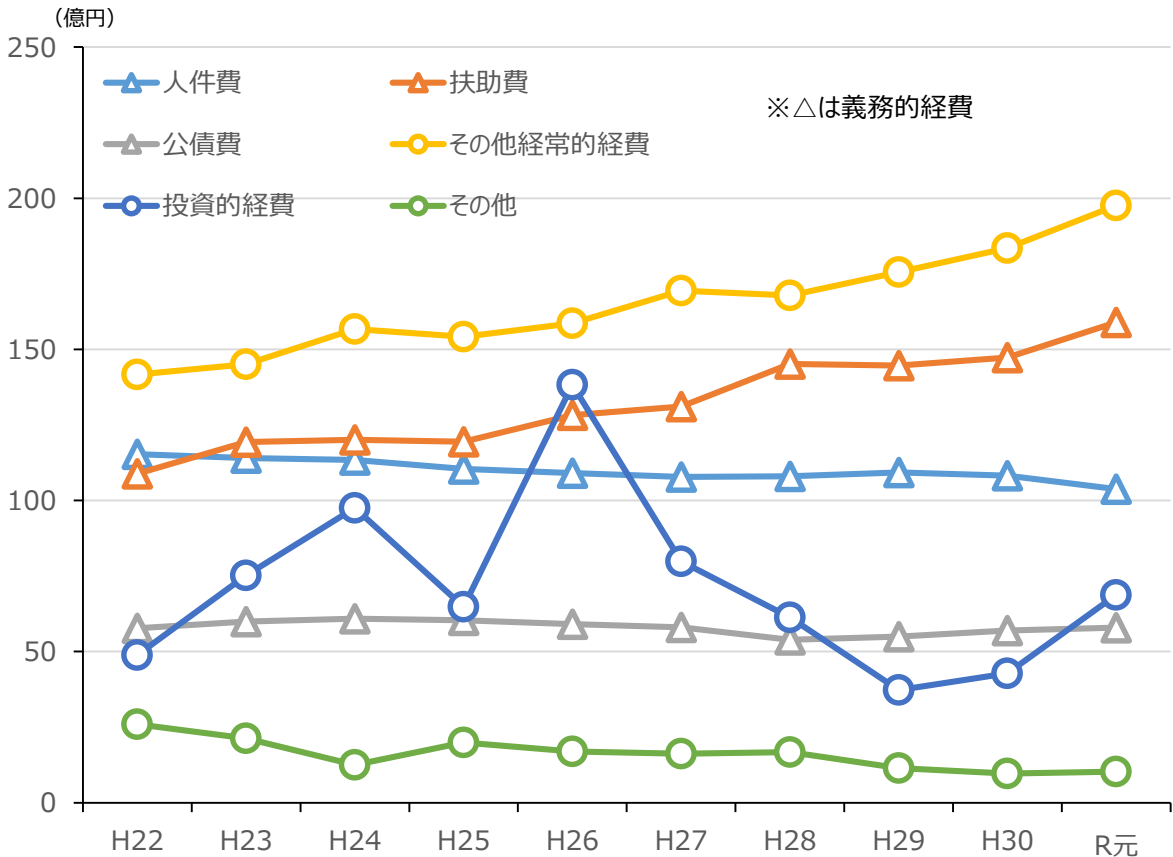
(12) 性質別歳出の内訳（普通会計）



※ 性質別分類とは 地方公共団体の経費を経済的性質を基準として分類することです。

八千代市の財政状況

(13) 性質別歳出の推移（普通会計）



義務的経費である人件費は、職員の定員管理の適正化や給与の適正化等により減少傾向ですが、扶助費は、福祉サービスの利用者の自然増等により増加しています。（平成22年度の増は子ども手当・平成26年度の増は臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金によるもの。）地方債を借りたときに支払う元利償還金である公債費は若干の増加。その他経常的経費は、施設の運営・維持管理にかかる物件費等の増加により、年々増加しています。

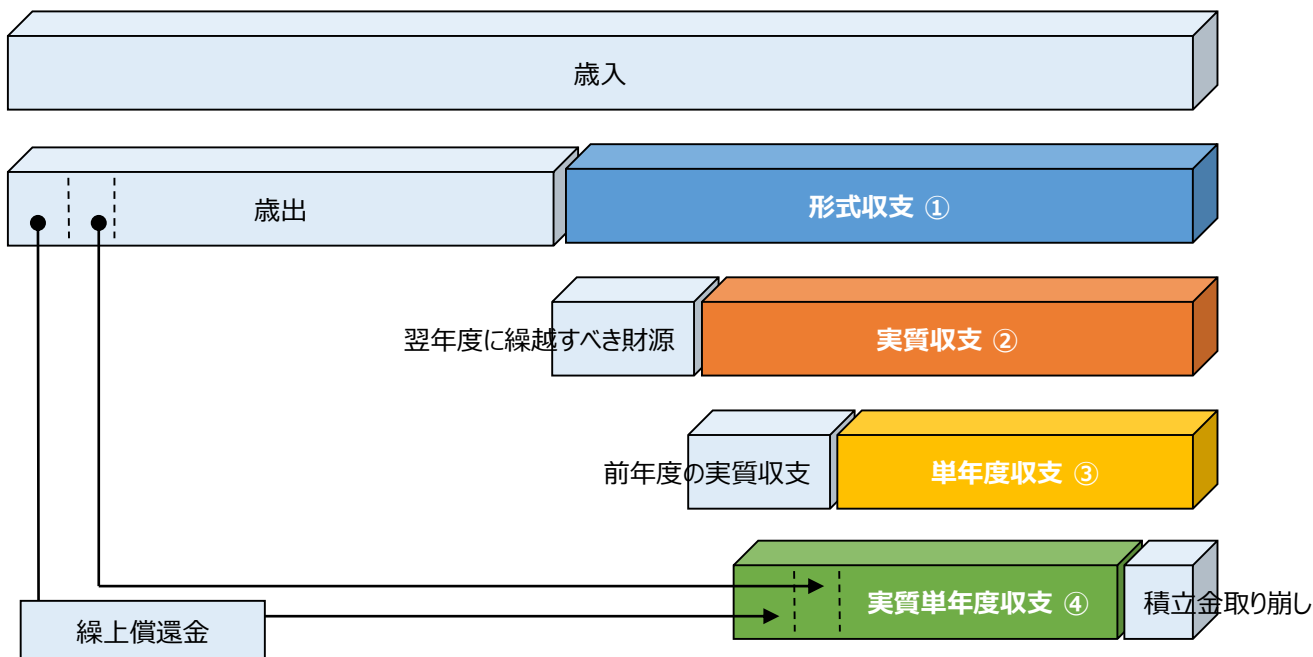
また、平成23・24年度の投資的経費の増は、平成23年度はみどりが丘小学校校舎等買収、学校給食センター調理場用地取得等の普通建設事業費及び東日本大震災関連の災害復旧事業費、平成24年度は市民会館リニューアル整備、西八千代調理場整備事業等によるもの。平成25年度はこれらの事業の終了により減となりましたが、平成26年度は中央図書館等整備、焼却炉施設基幹的設備改良、八千代台東小学校改築等の大規模建設事業が集中したことにより大幅な増となりました。平成27年度以降はこれらの事業の終了により減少傾向にありましたが、平成30年度は待機児童対策による民間保育園の整備などにより増加し、令和元年度は東消防署整備事業等により増加しています。



八千代市の財政指標

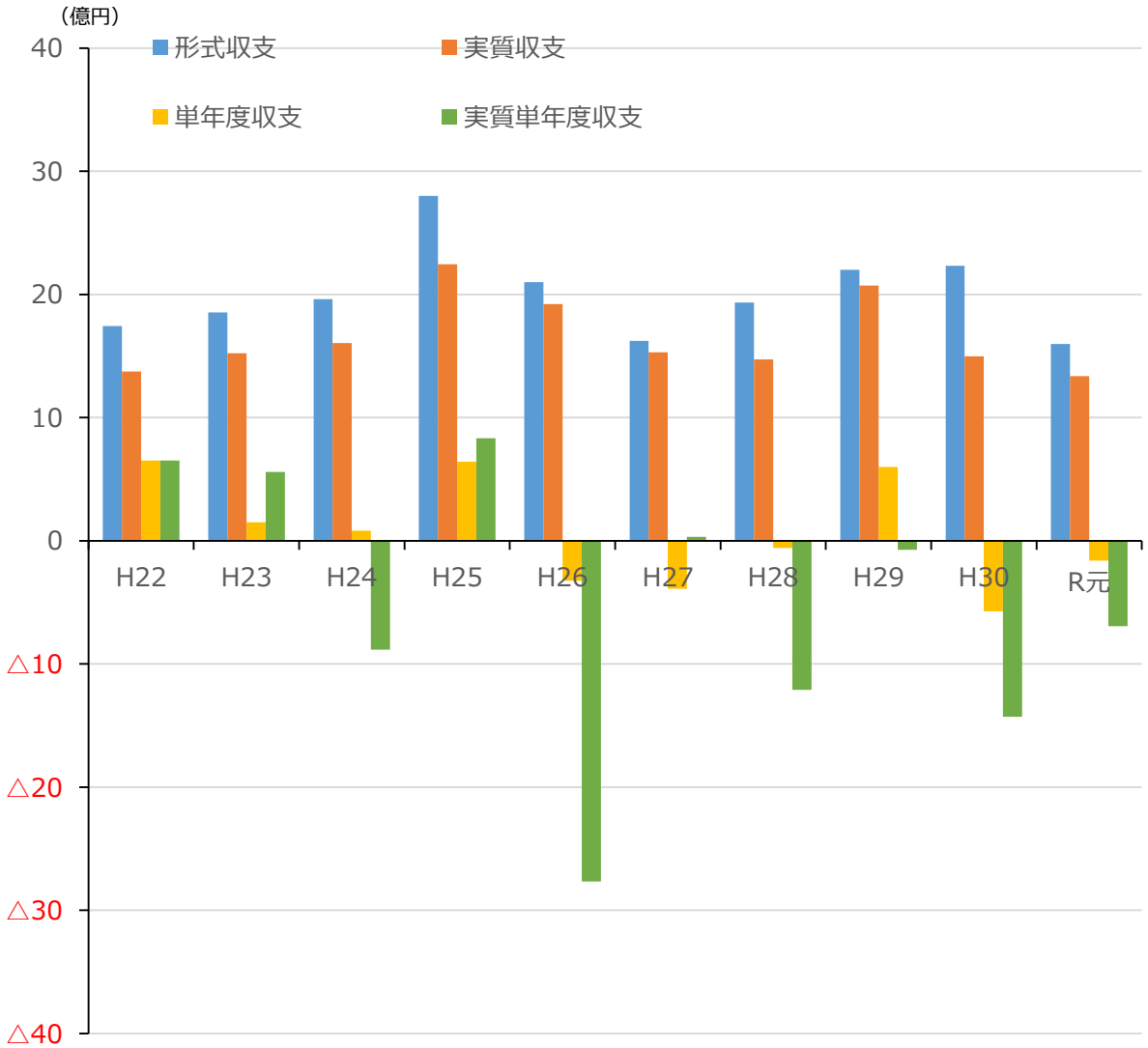
(1) 決算収支

区分	説明
形式収支①	歳入総額から歳出総額を引いたもの。
実質収支②	形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源を控除したもので、実質的な剰余金。この実質収支から、黒字・赤字がどのくらいあるか分かります。収支の見通しをきちんと立て、サービスを効率的に市民に配分したかどうか、行政運営の良し悪しを判断する重要なポイントになります。目安として、標準財政規模の3～5%程度が望ましいとされています。
単年度収支③	実質収支には前年度以前からの黒字が累計されているため、当該年度だけの収支を把握しようとするもの。実質収支から前年度の実質収支を差引き、黒字になれば、新たな剰余が生じたといえます。この1年で黒字・赤字をどれだけ増やしたかということを表したものです。
実質単年度収支④	積立金、繰上償還金は、支出として収支の黒字を減少させるものですが、翌年度以降の財政運営にとっては黒字の要素になります。一方積立金の取り崩しは、収入ですが将来の赤字の要素になります。このようなやりくりがなかったら、収支はどうなるかということを表したものです。



八千代市の財政指標

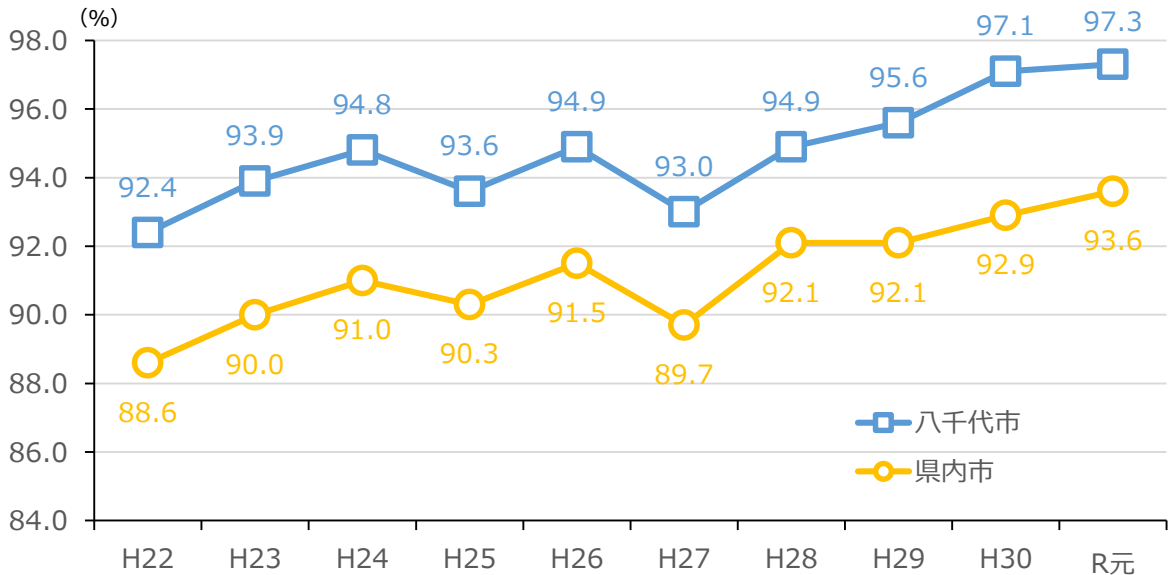
(2) 決算収支の推移 (普通会計)



実質収支額は約13億円となり、実質収支比率は4.0%となりました。実質単年度収支については積立金（財政調整基金）の取崩しに伴い、昨年度と同様に赤字となりました。

八千代市の財政指標

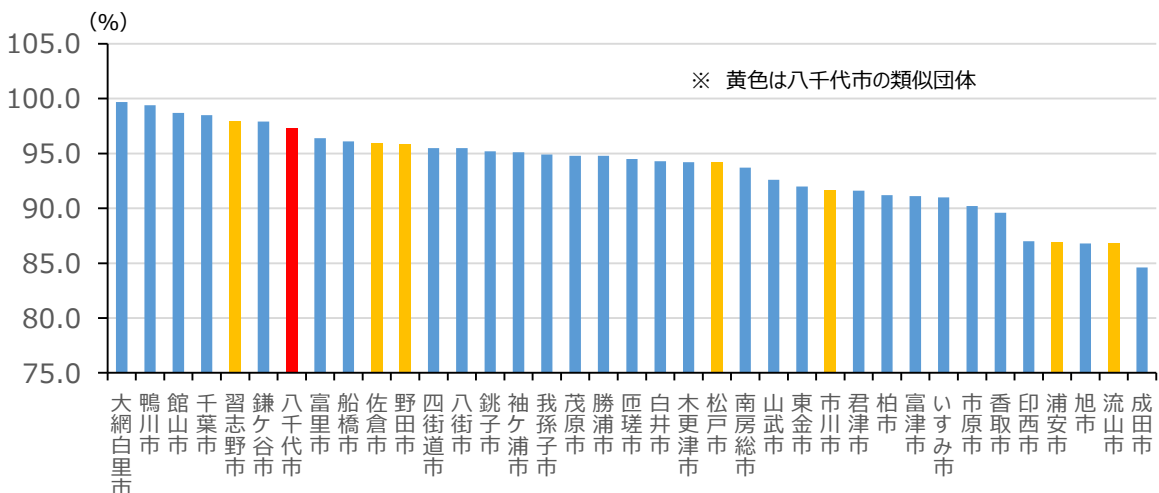
(3) 経常収支比率の推移



経常収支比率とは 義務的経費（人件費・公債費・扶助費）や経常的経費（物件費など毎年度経常的に支出される経費）を賄うため、経常一般財源（地方税など毎年度経常的に収入される一般財源）をどの程度充てているかを示す、財政構造の弾力性を判断するための指標です。市が市民のニーズにすぐに対応できるかどうかを示し、この比率が低いほど自由に使えるお金が多いということになります。多様化・複雑化する市民のニーズに応えるには、財政構造に余裕があることが必要です。

令和元年度は公債費や補助費等の経常的経費の増が続き、経常収支比率は過去2番目に高い97.3%となり財政の硬直化が進んでいます。

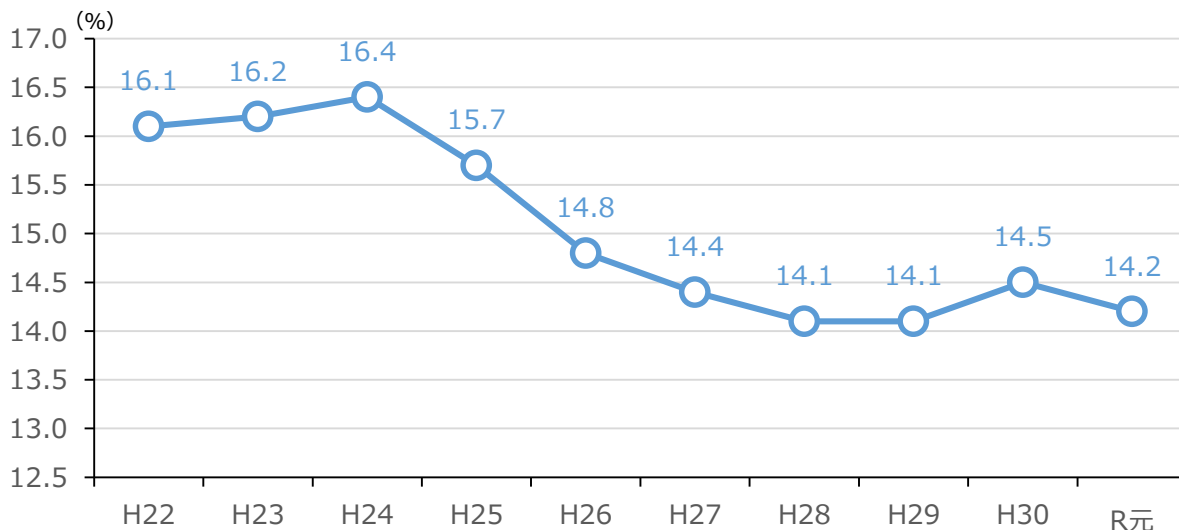
※ 一般財源とは 財源の使い道が特定されず、どのような経費にも使用することが出来る財源のことです。地方税、地方譲与税、地方交付税など。





八千代市の財政指標

(4) 公債費負担比率の推移



公債費負担比率とは 公債費による財政負担の度合いを判断する指標の一つで、公債費に充当された一般財源等の一般財源総額に対する割合です。この比率が高いほど、一般財源等に占める公債費の比率が高く、財政構造の硬直化が進んでいることを表しています。15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされています。

(5) プライマリーバランスの推移

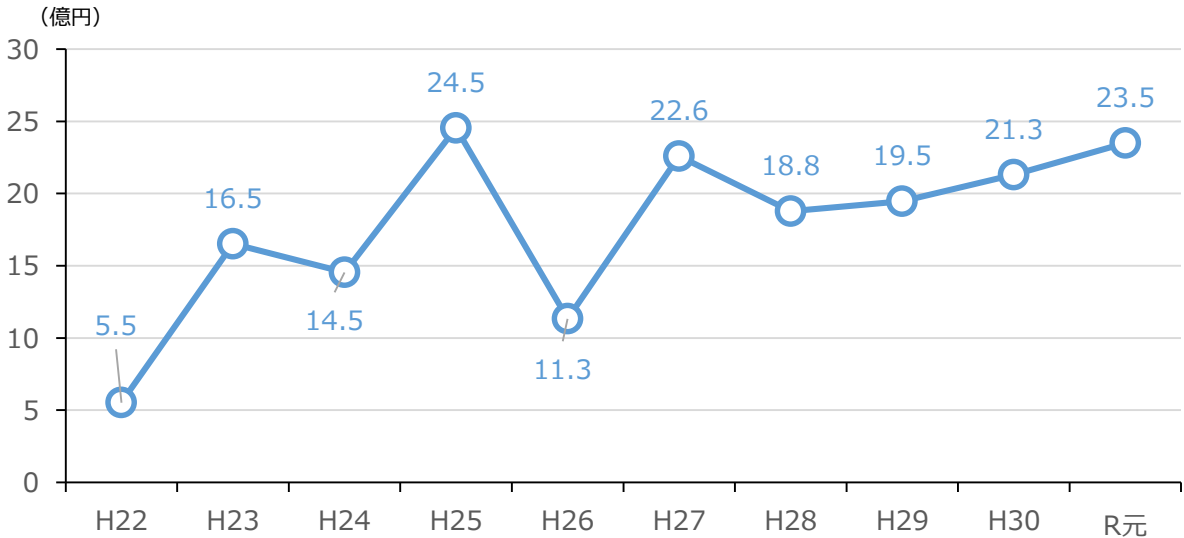
(単位：千円)

内容	区分	H27	H28	H29	H30	R元
収入総額 (※歳入総額 - 繰越金)	A	56,730,816	56,381,170	54,319,779	55,919,566	59,835,901
地方債発行額	B	5,695,000	4,648,200	2,644,600	2,715,900	4,655,300
財政調整基金等取崩額	C	0	1,151,928	673,785	857,298	532,803
支出総額	D	56,237,237	55,300,028	53,315,812	54,845,337	59,721,618
地方債元利償還額	E	5,805,025	5,391,026	5,493,990	5,700,721	5,789,822
財政調整基金等積立額	F	1,360,550	871,122	941,827	1,041,466	752,975
プライマリーバランス (A-B-C-D+E+F)		1,964,154	1,543,162	4,121,419	4,243,218	1,468,977

プライマリーバランスとは 行政経費を、借金をしないでどの程度賄えているかを示す指標です。地方債などで調達した資金を除いた歳入から、地方債の元利償還金などを除いた歳出を差し引いて計算します。つまり借金の影響を考慮せずに、単年度の収支均衡がとれているかどうかを示す指標です。基礎的財政収支とも呼ばれます。

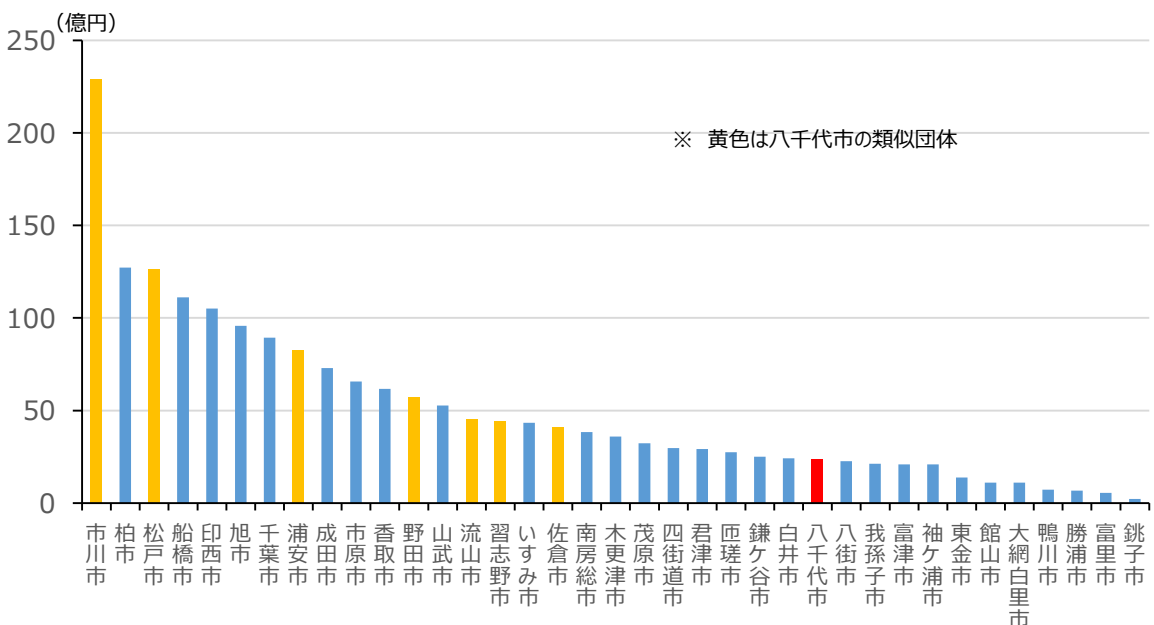
八千代市の財政指標

(6) 財政調整基金残高の推移



財政調整基金とは 年度間の財源の不均衡を調整するための積立金です。財源に余裕のある年度に積み立て、収入が著しく減ったときや、災害や大規模事業など一時的に多額な支出が必要になったときの財源にするものです。

八千代市の第2次行財政改革大綱後期推進計画（平成28年度～32年度）では、標準財政規模の5%以上の基金残高（約16億8,000万円）を目標としており、令和元年度も取り崩しを行いましたが、年度末残高においては目標値を達成しました。



(7) 健全化判断比率

財政破たんを未然に防ぐことを目的に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）」という法律ができ、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するためのものとして以下の4つの指標（健全化判断比率）を議会や市民の皆様にも毎年公表することが義務付けられました。

① 実質赤字比率

地方公共団体の最も主要な会計である「一般会計等」に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表わしたものです。

この指標の早期健全化基準（イエローカード）は11.66%、財政再生基準（レッドカード）は20.00%となっており、八千代市では赤字が発生していないため、基準をクリアしています。

② 連結実質赤字比率

上水道や下水道など公営企業を含む「地方公共団体の全会計」に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合で表したものです。

この指標の早期健全化基準（イエローカード）は16.66%、財政再生基準（レッドカード）は30.00%となっており、八千代市では赤字が発生していないため、基準をクリアしています。

③ 実質公債費比率

地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。

この指標の早期健全化基準（イエローカード）は25.0%、財政再生基準（レッドカード）は35.0%となっています。これは家計に例えると、家や車のローン、クレジットカードでの買い物等の借金の返済額が年収の4分の1（25%）以上になると借金漬けの生活になる可能性が高いことを表しています。八千代市のこの指標の数値は6.4%で基準をクリアしています。

④ 将来負担比率

地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。

この指標の早期健全化基準（イエローカード）は350.0%となっています。これは家計に例えると、家や車のローン、クレジットカードでの買い物等の借金の残高（将来返済しなければならない額）が、年収の3.5倍以上になると、今後借金の返済に追われ、生活が苦しくなることを表しています。八千代市のこの指標の数値は21.0%で基準をクリアしています。

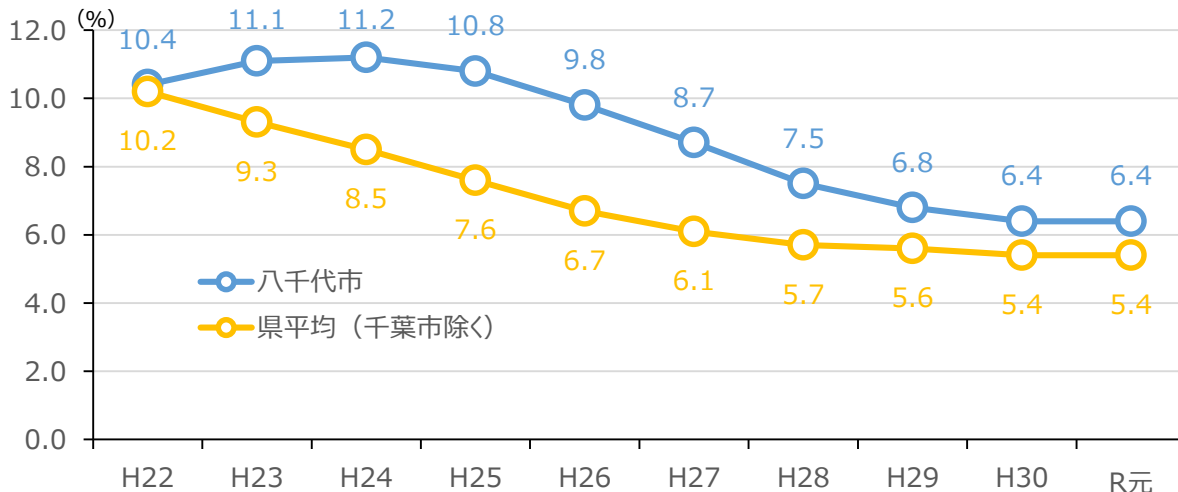
区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
八千代市	—	—	6.4%	21.0%
早期健全化基準（イエローカード）	11.66%	16.66%	25.0%	350.0%
財政再生基準（レッドカード）	20.00%	30.00%	35.0%	



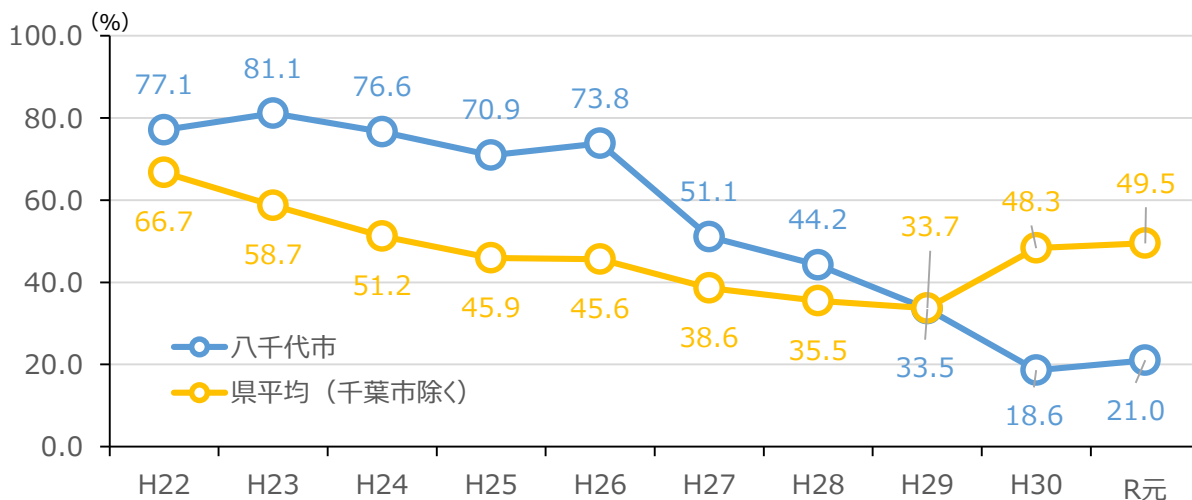
八千代市の財政指標

【参考】健全化判断比率（直近10年間の推移）【令和2年9月30日現在】

○ 実質公債費比率の推移



○ 将来負担比率の推移



どちらの数値も早期健全化基準を大きく下回っていますが、実質公債費比率は県内市の中では比較的高い数値となっています。将来負担比率については県内1/4以上の市で将来負担額より充当可能財源等が多く比率がでないため結果的に県平均を下回っていますが、今後も財政の健全化に努めていく必要があります。

八千代市の財政指標

【参考】健全化判断比率（県内他市との比較）【令和2年9月30日現在】

(単位：%)

団体名称	健全化判断比率		実質赤字比率		連結実質赤字比率		実質公債費比率	将来負担比率
			早期健全化基準		早期健全化基準			
千葉市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	12.9	138.3
銚子市	-	(12.82)	-	(12.82)	-	(17.82)	13.2	137.0
市川市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	1.6	-
船橋市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	0.7	24.1
館山市	-	(13.20)	-	(13.20)	-	(18.20)	5.9	27.3
木更津市	-	(12.02)	-	(12.02)	-	(17.02)	3.5	10.8
松戸市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	0.6	-
野田市	-	(11.79)	-	(11.79)	-	(16.79)	5.0	22.9
茂原市	-	(12.59)	-	(12.59)	-	(17.59)	9.7	109.7
成田市	-	(11.51)	-	(11.51)	-	(16.51)	7.4	77.3
佐倉市	-	(11.79)	-	(11.79)	-	(16.79)	1.6	-
東金市	-	(13.00)	-	(13.00)	-	(18.00)	2.7	80.0
旭市	-	(12.60)	-	(12.60)	-	(17.60)	7.9	-
習志野市	-	(11.69)	-	(11.69)	-	(16.69)	8.1	25.1
柏市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	2.2	-
勝浦市	-	(14.96)	-	(14.96)	-	(19.96)	7.6	78.9
市原市	-	(11.25)	-	(11.25)	-	(16.25)	5.9	35.2
流山市	-	(11.70)	-	(11.70)	-	(16.70)	1.7	25.4
八千代市	-	(11.66)	-	(11.66)	-	(16.66)	6.4	21.0
我孫子市	-	(12.17)	-	(12.17)	-	(17.17)	0.9	-
鴨川市	-	(13.44)	-	(13.44)	-	(18.44)	11.0	105.1
鎌ヶ谷市	-	(12.52)	-	(12.52)	-	(17.52)	3.4	27.8
君津市	-	(12.53)	-	(12.53)	-	(17.53)	3.9	31.1
富津市	-	(13.16)	-	(13.16)	-	(18.16)	8.6	69.0
浦安市	-	(11.33)	-	(11.33)	-	(16.33)	8.3	33.4
四街道市	-	(12.69)	-	(12.69)	-	(17.69)	2.9	-
袖ヶ浦市	-	(12.78)	-	(12.78)	-	(17.78)	1.0	16.9
八街市	-	(12.93)	-	(12.93)	-	(17.93)	6.0	29.7
印西市	-	(12.38)	-	(12.38)	-	(17.38)	0.7	-
白井市	-	(13.08)	-	(13.08)	-	(18.08)	2.5	53.0
富里市	-	(13.46)	-	(13.46)	-	(18.46)	7.8	50.4
南房総市	-	(12.83)	-	(12.83)	-	(17.83)	7.9	-
匝瑳市	-	(13.41)	-	(13.41)	-	(18.41)	5.7	21.2
香取市	-	(12.51)	-	(12.51)	-	(17.51)	8.1	52.2
山武市	-	(12.87)	-	(12.87)	-	(17.87)	8.7	-
いすみ市	-	(13.20)	-	(13.20)	-	(18.20)	7.6	37.4
大網白里市	-	(13.39)	-	(13.39)	-	(18.39)	8.2	86.1
市平均							5.6	38.5
市平均（千葉市除）							5.4	35.8
県平均							5.8	34.3
県平均（千葉市除）							5.7	32.3

※実質赤字比率，連結実質赤字比率，将来負担比率において比率が算出されない団体は「-」で示す。

※実質公債費比率の早期健全化基準は25.0%，財政再生基準は35.0%。

※将来負担比率の早期健全化基準は350.0%。（政令市400.0%）

※平均値は単純平均である。

※黄色で表示されているのは八千代市の類似団体。



八千代市の財政指標

(8) 市の財政を家計にたとえると

一般会計決算額を年収500万円の家計に置き換えました。家計の項目に沿って表現したため、厳密な意味では内容が異なる場合があります。()内は市での区分です。

収 入 (円)	
給与収入 (市税)	2,419,997
パート・家賃収入 (分担金及び負担金, 使用料及び手数料)	182,374
預貯金の取り崩し(繰入金)	78,965
親からの援助(国・県支出金, 交付税, 譲与税, 各種交付金)	1,659,990
住宅・車・生活費のローン借入れ(市債)	379,599
雑収入(繰越金ほか)	279,075
合 計	5,000,000

収入と支出の差引 (円)	
繰越金(次年度繰越金)	75,596
預貯金 (決算剰余として次年度積立)	54,632

支 出 (円)	
食費(人件費)	846,235
医療費(扶助費)	1,295,831
住宅・車・生活費のローン返済 (公債費)	472,109
住宅の増改築や車の購入 (投資的経費)	560,170
光熱水費や生活消耗品 (物件費)	915,812
子どもへの仕送り(繰出金)	407,412
自治会費など(補助費等)	270,598
住宅や車の修理代 (維持補修費)	21,832
預貯金(積立金)	49,368
雑支出(その他)	30,394
合 計	4,869,770

